

## 日蓮宗国際交流会の活動を裏付ける経文 寿量品六或示現

我時に衆生にかたる 常に此に在って滅せず 方便力を持つての故に 滅不滅ありと現ず 余国に衆生の 恭敬し信樂する者あれば 我また彼の中に於いて 為に無上の法を説く 汝等此を聞かずして ただ我滅度すと謂えり  
我時語衆生 常在此不滅 以方便力故 現有滅不滅 余国有衆生  
恭敬信樂者 我復於彼中 為説無上法 汝等不聞此 但謂我滅度

別名 釈尊の六或示現ジャーニーズ 六或示現ツーリズム

## 結経 懺悔滅罪法第三 立正安国の動機

正法治国 不邪枉人民 正法をもって国を治め 人民を邪枉せざる

- 各寺院が存在目的とする立正安国の聖業に精進するための業務にあたる活動
- 立正安国論をはじめ御書には多くの諸經典の引用がなされている
- 法華経は諸仏諸教によって分断された釈尊を一つの人格体とせしめた經典
- もとの道へ戻ろうとする自分の最高のサポート役
- 近代を知ることによって自ずと見えてくるもの
- 二乗の罪 反知性主義を生む過程を予知

☆グローバルズムで見えてくる仏教ローカル リモートと仏道の一致点

人類が自覚と認識を得た枢軸時代に誕生 倫理宗教 独存者による自由の宗教  
マーベリックレリジョン 繫縛から解脱へ 自分から自由になる  
自己否定から全肯定へ 自己投企の宗教 仏性を殺さず見出し活かす不殺生戒  
室町・江戸期の祖師 教団と日蓮聖人の中世と近世と近代  
演劇とは ヘレニズム 死海での発見 敦煌での発見 ハット 和文化とは

死後の世界 中間状態と九識の構造を知ることによって自分を知り

人格霊格の基本的土台は形成される 主体と客体の関係性の真相

迹仏迹化迹法の知らぬところ 二項共存の真理 善悪不二・邪正一如 開会

善因善果？ 縁起と無我 一念と三千 妙法と蓮華 成仏と才能の関係 近代一神教  
自然との関係 不敬罪 遠寿院脱走 身延お首 spm化 化城の日本史 月回向

#### 宗門人のタイプ4

- ・世間に名声や成功があろうがなかろうがそこには無頓着で、とにかく日蓮聖人の本来の面目を成就するために日々精進し身を捧げるタイプ
- ・日蓮宗の思考と行動の規範は一通り学び僧侶としての専門性を深めるが、宗門の常識や生活の様式には重きを置かないタイプ
- ・務めとして与えられる課題に参加し地位を欲求し利得を計算し政治力を持つために努力するが確固たる信念や宗門的個性には関心がないタイプ
- ・日蓮聖人の精神と行動との様式を自ら実践的に学んで、現代化を捕まえ、積極的に本来の社会的宗教の役割を果たしていくことに意味を見出すタイプ